

こども家庭庁

～こどもまんなか社会の実現に向けて～

こども家庭庁ではたらく職員に

大切にしてほしいことは？

いけんのまとめ（対面回）

開催日：2025 年 4 月 19 日（土）

目次

内容

2025 年 4 月 19 日回..... 3

1 班(小学校 5～6 年生 5 名)..... 3

2 班(中学生 5 名) 5

3 班(高校生 4 名) 7

4 班(高校生 5 名) 9

5 班(大学生 5 名) 12

6 班(社会人 4 名)..... 15

2025 年 4 月 19 日回

1 班(小学校 5～6 年生 5 名)

- こども家庭庁について、どのようなイメージがありますか？
 - ・ こどもまんなか社会の実現を目指そうとしている。
 - ・ こどもの意見もちゃんと取り入れてくれている。

- こども家庭庁で働く人について、どのようなイメージがありますか？
 - ・ こどもの話を聴いてくれて、それを実際にやろうと気持ちが合う人。
 - ・ こどもが大好きな人。
 - ・ 頭がいい人。
 - ・ こどもの貴重な意見を聴いてよりよい社会を作ってくれる人。
 - ・ やる気満々な人。
 - ・ 「こどもが幸せに暮らせるようにしたい」という強い意志を持つ人。
 - ・ こどもの意見に興味がある人。
 - ・ こどもをもっているお父さんやお母さん、身近にこどもがいる人。
 - ・ 考えられる人。
 - ・ 仕事熱心な人。
 - ・ 時には厳しく、時には優しくこどもを大切にしてくれる人。
 - ・ 「こども誰でも通園制度」がニュースで取り上げられていた。
 - ・ 放課後等デイサービスとか、発達障害がある人が放課後に迎えに来てもらったり、交流の場とか。

- こども家庭庁のミッションである「こどもまんなか」社会実現のため、こども家庭庁で働く人に、なにを大切にしてい働いてほしいですか？
 - ・ 自分がこどもの頃を思い出して働いてほしい。
 - ・ 「こどもにこうなってほしい、ああなってほしいと」願うばかりじゃなくてちゃんと行動してくれる人に働いてほしい。
 - ・ みんなのことを考えてほしいけど障害をもつ人のことも考えてくれる人に働いてほしい。
 - ・ （ファシリテーターのように）意見を広げたり深めたりしてくれる人に働いてほしい。
 - ・ こどもの意見を^{しんしん}真摯に受け止めて理解して、そのためにいま何ができるのかを考え行動してほしい。
 - ・ 知らない人でも初対面の人でも優しく声をかけたり、いっぱいお友達ができちゃうような、いっぱい話して

くれる人に働いてほしい。

- ・ 自分は勉強が好きなのに、こどもは勉強が嫌いという前提で話してくる人は嫌だ。「こどもは絶対こうだ」と決めつける人に働いてほしくない。
- ・ 決めつけられるとプレッシャーになるので嫌だ。
- ・ いつも笑顔で関わりやすい人。作り笑顔は嫌だけど、心からの笑顔はいい。
- ・ 第一印象が優しくったり、コミュニケーション取りやすかったり、話しかけやすかったりするといい。笑顔だけじゃなく、行動とかも含めて。怒っているような人は嫌だ。
- ・ 「さっさとやろう」「絶対に正しいから早くこうしよう」と急かさないでほしい。
- ・ 人のためになるようなルールを考えてほしい。東京都の高校とかはルールを見直して、生徒が意見を出してルールを変えたと聞いた。
- ・ こどもみんなが明るい生活ができるような幸せのために考えられる人になってほしい。
- ・ 政策とかをやろうとして、誰かを取りこぼしてないかを考えられる人になってほしい。
- ・ 相手を想える人。
- ・ 今のこどもが大人になって、幸せに暮らせるように政治を行う。自分のこども（の世代）が幸せになるようにと思って考えて、どんどん次の代の人を考えてほしい。
- ・ 一人ひとり意見がバラバラだけど、みんな違ってみんないいみたいな。
- ・ いろんなこと（解決策）を考えることで、代替案^{だいたいあん}を考えたりできるとよい。

2 班(中学生 5 名)

- こども家庭庁について、どのようなイメージがありますか？

＜こども家庭庁のイメージは＞

- ・ こどもを助けるために動いてそう。
- ・ 若い世代の意見を集めている。
- ・ 少子化対策をしている。
- ・ こどものために、お金の使い道を考えている。

＜こども家庭庁の取組を知っているか＞

- ・ 正直、身近にはそんなに感じたことがない。
- ・ こどもの意見を聴いて取り組んでいそう。

- こども家庭庁で働く人について、どのようなイメージがありますか？

＜こども家庭庁で働く人のイメージは＞

- ・ こども好きのイメージ。
- ・ こどもを良く知っている人が働いてそう。
- ・ 保育士資格や元教師の人が働いていそう。こども関係のお仕事は、女性の方が多いイメージなので、こども家庭庁で働いている人も、女性の方が多いと思った。
- ・ むしろ、男女両方の意見を取り入れないといけないので男女同じ比率で働いていると思った。
- ・ 政治家は男の方が多いイメージなので、働いている人は男の方が多いと思った。
- ・ 「日本を変えないといけない」と感じている若い人が多く働いていると思った。
- ・ むしろ今の若い人は、自信がない人が多いから、年齢が高い人が多いと思った。

- こども家庭庁のミッションである「こどもまんなか」社会実現のため、こども家庭庁で働く人に、なにを大切にして働いてほしいですか？

＜こども家庭庁で働いてほしい人は＞

- ・ こども目線で、こどもの意見を聴いてくれる人がいい。例えば、公園に鉄棒が沢山あるけど、そこまで必要な人がいない。給食も美味しくない。もっとこどもの意見を聴いて施策を作ってほしい。
- ・ 誰も取り残さない人。例えば算数の時間の中で問題が解けなくても、熱心に 1 対 1 で勉強を教えてくれる人のようなイメージ。
- ・ まじめすぎない人。ノリがいい人が良い人。遊び心のある施策とかをやってほしい。
- ・ 「学校にスマートフォンを持っていってダメ」と怒ったり、髪型に厳しい古い考えを持たない人が良い。

＜こども家庭庁の職員を見てどう思うか＞

- ・ 柔らかそう。

- ・ 気軽に話せそう。
- ・ こどもたちの意見をちゃんと聴いてくれそう。

＜こども家庭庁でどのように働いてほしいか＞

- ・ こどもの意見を採用して働いてほしい。「こどもは鉄棒が好きだろう」とかイメージだけで施策を作らないでほしい。
- ・ イメージで作っていると感じることは、給食や校則。
- ・ 制服がずっと変わらない。寒がりや暑がりの人がいるのに制服が全員同じことは違和感がある。

＜イメージだけで施策を作らないために、大人が行うべきことは＞

- ・ 普通の小、中学校の現状を知ってから施策とかを考えてほしい。例えば、学校ごとに「こども派遣員」を置いて、学校で話し合ったことを、こども家庭庁に届けられるようになればいい。
- ・ 実際に、こども家庭庁の人に学校に来てもらい、よりこどもと大人が触れ合う機会を作してほしい。普段、自分は親や先生としか関わらないので、大臣等、普段関わらない大人と一緒に何かを行う機会がほしい。
- ・ 一回プライドを捨ててもらう。
- ・ こどものイメージだけで動いていて、こどもを 1 人の人間として見てないと思った。こどもも、考えているし、生きている年数は大人とは違うが、1 人の人間としては大人もこどもも同じだと思う。

＜こども家庭庁で働くとしたら何をする＞

- ・ まずは学校に行き意見を聴く。
- ・ 制服など、校則を一から考えたい。
- ・ 給食を美味しくする。複数種類の弁当を選べるようにしてほしい。

＜こども家庭庁で働いてほしくない人は＞

- ・ 頭が固い人や、物事を決めつけてしまう人、すぐに現実的なことを考える人は嫌だ。最初から、無理と言うのではなく、とりあえずやってみてほしい。
- ・ 意見を聴いてくれるが、自分の思いこみだけで進めて、少しも意見を反映してくれない人。

3 班(高校生 4 名)

● こども家庭庁について、どのようなイメージがありますか？

＜「こども家庭庁」の名前を知っているか＞

- ・ 今回のひろばで初めて知った。
- ・ 前から知っていた。

＜こども家庭庁に対してどのようなイメージがあるか＞

- ・ こどもに特化し、こどもの幸福のための政策をしているイメージ。
- ・ こどもまんなか世界を作っていくために政策に取り組んでいる。

＜こども家庭庁の取組に関する説明を職員から受け、改めてどのようなイメージを持っているか＞

- ・ 思っていたよりもたくさんの取組をしていると思った。
- ・ 女性がたくさん働いていると思った。
- ・ こどもを持つ親が働いているイメージ。
- ・ 育児をしているからこそこどものための政策を考えられるのかなと思う。
- ・ こども家庭庁で働いている人たちは、他の省庁の人よりもこどものことが好き・こどものために何かしたいという気持ちが強いんだろうと思う。

＜特にこども家庭庁にやってほしいことはあるか＞

- ・ ヤングケアラー、いじめ等苦しんでいるこどものための環境づくりをしてほしい。

＜みんなが暮らす市区町村ではできないが、こども家庭庁であればできそうだと思うことはあるか＞

- ・ 「はたから見たら怠けているように見えるけど、実は真剣に悩んでいる・日常生活で困っているけど話しにくい」を解決できるように相談しやすくなればいいと思う。
- ・ こども家庭庁の取組をもっとテレビで広めてほしい。

● こども家庭庁で働く人について、どのようなイメージがありますか？

- ・ こども家庭庁内の会議などでたくさんのこどもの意見をどうやってまとめているのかなと思った。
- ・ 最近、地上波の番組で文部科学省が出ていて、そのドラマから文部科学省で働く人は「黙々と一人で仕事している」イメージがあったけど、こども家庭庁で働く人はもっと明るそう。
- ・ 年配の方が多いイメージだったが、若くてフランクな方が多いと思った。

＜どんな人に働いていて欲しいか＞

- ・ 楽しくやってほしい。省庁の方自身が楽しんで働いていていれば、施策を受ける私たちも嬉しい。
日本は、まだまだ固定概念、決めつけがある。こどもは決めつけられると傷つくので、あらゆる視点でその子を受け入れる姿勢を持って働いて欲しい。
- ・ イメージを形、成果にしていける人に働いてほしい。

＜これまでの話、意見を踏まえて「ここがこども家庭庁の課題だ」と思うところはあるか＞

- ・ 私たち高校生に知られていないことだと思う。「今日こども家庭庁言ってくる」と友達に話しても「家庭庁ってどこ？」と言われた。こども家庭庁を知らない高校生が多く、知らないのはもったいないと思うので、テレビやホームページだけでなく、もっとこどもたちに知ってもらえるような工夫をしないと（私たち）こども自身が知らないままになっちゃうと思う。
- ・ 「多様性」「多様性の社会をつくろう」って言葉がたくさんでてくるけど、こどもからすると「あれ？結局何？」って思っちゃう。

＜こども家庭庁が伝える「多様性」とはどのようなことを指すと思うか＞

- ・ いじめを受けた子が SOS を連絡してきたら、その子に向き合って意見を聴いてあげることだと思う。
 - ・ 「多様性」とまとめてしまうのではなく、その人個人の「個性」をみてほしい。
 - ・ 「多様性」ではなく各々が持つバックグラウンドを大切にできたらいいと思う。
- こども家庭庁のミッションである「こどもまんなか」社会実現のため、こども家庭庁で働く人に、なにを大切にして働いてほしいですか？

＜「多様性」という言葉が多く出てきたが、「多様性」を踏まえ、こども家庭庁に大切にしてほしいことは＞

- ・ 「多様性」は学校の授業では教わらない。ただテレビや SNS ではたくさん出てくる。だからこども家庭庁が「多様性とは何か」を言葉として表してこどもに知らせることが大切と思った。
- ・ 「多様性」は、みんな違うのに一つにまとめてしまっている気がする。

＜他に大切にしてほしいことはあるか＞

- ・ こどもの頃の気持ちを忘れない人に働いてほしい。
- ・ 都会に住んでいる人、田舎に住んでいる人間わず文化の違いを大切にしてほしい。
- ・ 楽しく仕事してほしい。施策作るときにも働いている人が「楽しくて」「気持ちよく」働けていれば、施策を受ける側も心地よく感じる。
- ・ 育休を短い期間だけしかとっていない人、男性も取れるのに取っている人が少ないと学校で習ったので、しっかり休んでほしいと思う。自分が大変だと病んでしまったり、いっぱいいっぱいになっちゃうと思うのでしっかり休んでほしい。
- ・ こども・家族に関わる施策考えて取り組むからこそ、根拠となるデータを活用して施策を考えられるようなデジタル・数値に強い人がいい。

4 班(高校生 5 名)

- こども家庭庁について、どのようなイメージがありますか？
- こども家庭庁で働く人について、どのようなイメージがありますか？
※2つの質問に跨る質問を問いかけ

＜こども家庭庁をどこで知ったか＞

- ・ 確かテレビのニュースが一番最初だった。
- ・ 去年、高校の同じクラスでこの取組に入っている子がいて、将来こどものために何かする仕事をしたいんだよねって話をした時に、教えてもらった。
- ・ ニュースでよく知るといよりは、ニュースでしか知る方法がないと言った方が近いと思う。

＜こども家庭庁へのイメージは＞

- ・ 仕事内容自体はわかっていないけど、なんかまずこどもを軸に置いて考えて行動してくれているんだろうなって。
- ・ 何となく、こども系の支援をしてくれていそう。そんな程度のイメージ。
- ・ 全体像として、組織全体としての目標は分かるが、職員個々人が何をどうやって、どういう働きをしているのかは分かってない。あと、こども家庭庁とほかの省庁が連携してるっていうイメージがあんまりない。

＜こども家庭庁で働く人のイメージは＞

- ・ ニュースで見ると堅すぎたけど、いざ話してみると全然そんなことなかった。
- ・ スーツを着てカチッとした人がいるんだろうなってぼんやり思う。ただ、今日来てみて、ビル入った時もなんか明るい人が迎えてくれたし、みんな私服だしで、イメージは全然変わった。何ならもっとそういう面も出せばいいのになと思う。
- ・ 頭はいいけど面白くない、みたいな。
- ・ 正直に言ってあんまりイメージがない。というよりは、考えたことがなかったし、意識して生活をしていないっていうのが正しい。

例えば「こんなことをしました」とか、そういうのが目に入ってきたらいいと思うが、こども家庭庁ができましたよっていう話題しか、多分ニュースとかでもやらないと思うし、こども家庭庁が別の省庁と連携して、例えば何か解決させましたみたいな、そういう情報が入ってこない。

- ・ 大臣の顔は浮かぶ。
- ・ 元タレントがトップということで、現場とリアルにはあまり目が行かないんじゃないかな…という気は少しした。

＜どういう人に自分たちの政策を考えてほしいか＞

- ・ 自分たちと同じ目線で、寄り添ってくれる、やさしい感じの人がいい。自分がこどもだったらこういうルールがあったほうがいいのかって考えてくれる人がいてくれたら嬉しい。
- ・ 「指揮命令系統」がしっかりしている人たちが集まるといい。職員さんが別々の方向を向いていたらダメ

なので、まとまって一つの方向を向いてやっていってくれる人達がいい。

- ・ 頭の良さは関係ないが、今までや他の省庁とか違った、「型破り」なことをしてくれる人がいい。他の省庁だったらスーツ着てたり、こんな取組（いけんぶらす）しないから、こども家庭庁の存在自体が型破りだと思う。挑戦し続ける人がいい。

「正しいんだけど、僕たちはそうじゃない」というのは、学校とかでもよく感じる。そういう、リアルな感じもちやんと知った上で取り組んでほしい。

- ・ 様々な世代で人生経験積んでるような人、加えてこどもに寄り添ってくれる人。
- ・ 当事者じゃないと理解できないことを経験してきた人。
- ・ こどもに関わったことをやってた人がいい。児童館とか自分にこどもがいたりする人。
- ・ 人の痛みを知っている人が各部署に一人とかいたほうがいい。（人生が）全部順調に思い通りにいつてきた人がいることも大事で成功方法がわかると思うけど、そういう人も大事なんだけど、例えば、不登校は経験しましたとか、ちっちゃい時に虐待受けてたんだとか、施設に入ってたんだとか、そういう人たちがいると嬉しい。不登校の時、これ困ったなとか、虐待を受けていた時、こうだったらもうちょっと早く楽になってたかもしれないとか、やっぱそういうのがすぐ分かるのはすごい大事なかなと思った。

＜どこでこども家庭庁が堅いというイメージがついたか＞

- ・ 最初に思いついたのは官僚。国会答弁とか。
- ・ スーツを着て、怖い顔をしている人というイメージ。
- ・ 霞ヶ関っていう場所が物理的に以上に、心理的に遠いかも。普通の人からみたら、東京のビル群というイメージ。
- ・ スーツ＝頭が堅い人というイメージ。
- ・ こどもが着ないスーツとかを着ていると、こどもとは違うんだなと思う。

＜こども家庭庁への期待は＞

- ・ 新しいことをやってくれるんじゃないかというイメージがあるからこそ、何も変わらなかったらショックかもしれない。

- こども家庭庁のミッションである「こどもまんなか」社会実現のため、こども家庭庁で働く人に、なにを大切にしておいてほしいですか？

- ・ 納得感や実感があるものを大切にしてほしい。
- ・ こども中心に考えてほしいから、親や学校の先生の課題も解決できるようにしてほしい。親世代が教育に関して金銭的に苦しいとなると、こどもも苦しくなる。
- ・ 青年期と一緒に走る、伴走者のような人。
- ・ 存在感が薄めでこども家庭庁ってなにができるのか。文部科学省とかと比べて何ができるのか。社会に与える影響が薄め。
- ・ こどもの意見を聴くのは大事だし、学校とかこどもの環境に出向くことも大事だと思う。
- ・ 様々な年代のこどもたち、さらに不登校やいじめられた経験を持つ等、様々な状況下におけるこどもたちから直接話を聴き、その声から少しでも多くのこども達が生きやすくするには具体的にどうすればいい

か考えることを大切にしてほしい。

- ・ こどもや他の省庁と「ともに」「挑戦する」組織であり、人であってほしい。
- ・ 官僚だとか役人とかじゃなく、「普通の人」の感覚を大切にしてほしい。給料をもらって、お休みの日は遊んでとかどういう感覚。
- ・ 合理的に考えるより、柔軟な発想で、もし自分がこどもだったら…とか想像力ある人に働いてほしい。
- ・ こどもを1番に考えて、日本の経済面や家庭環境、さらには心理的負担を抱えているこどもたちも含めた、すべてのこどもたちが、少しでも生きやすくなる社会にしてほしい。
- ・ こどもの未来や生活のことを考えてくれる人が健康を害したら元も子もないので、まずは自分自身の心と体を大切にしてほしい。今日はこれを一番伝えたかった。
- ・ こどもに寄り添ってほしいし、何なら「もはやこども」というくらいの気持ちでいてほしい。
- ・ こどもや他の省庁と「ともに」「挑戦する」組織であり、人であってほしい。
- ・ チャンスを提供できる人。そのためには、こども家庭庁自身がどんどんチャレンジしてほしい。炎上とか色々あるのも知ってるけど、応援してる人、期待している人の方を向いてほしい。

5 班(大学生 5 名)

● こども家庭庁について、どのようなイメージがありますか？

＜「こども家庭庁」と聞いてどのようなイメージを持つか＞

- ・ 新しくできたイメージが強い。こども・家族に焦点を当てているイメージ。ただそこ(こども・家庭)に特化している分、(他の省庁の取組と)ちょっと被っていることが多いと思っていて、具体的にこどものために何をしているかのイメージはしにくい。
- ・ あまり予算がついていないイメージ。
- ・ 予算審議会などをみていると何を所管しているかわかりづらいと思う。
- ・ 周りの人に「ふらすメンバーだよ」と言っても「知らない」「そんな省庁あるんだ」と言われることが多い。
- ・ X(Twitter)をみていると炎上してしまっているイメージ。
- ・ 予算は内閣府からの児童手当などを移管されているのを知らずに炎上しているのではないかなと思う。
- ・ note を始めたことを知っていて、新しい取組を手掛けているイメージ。
- ・ こども家庭庁にどんな願いができて、どうやって叶えてくれるかわかりづらい。

＜こども家庭庁の取組・サービスで知っていることはあるか＞

- ・ いけんふらすの取組しか知らない。
- ・ 生後 100 ケ月プランやこども手当のサービスを提供している。
- ・ もともと縦割行政を是正するために設立されたと聞いたので各省庁間の調整をしているのではないかなというイメージ。
- ・ 母子家庭向けの政策、若者シェルター事業をやっているイメージ。
- ・ 女性が働きやすくするための支援、男性の育休取得推進に向けた取組をしているイメージ。

＜こども家庭庁がやってほしい取組・サービスはあるか＞

- ・ 働く女性に向けた支援、男性の育休取得の支援。
- ・ 各種手当、支給を受けたいと思ったときに、理解してからちゃんと手続きを進めたいと思うので、支給される手当の種類や計算方法・申請方法を知れるサイトや SNS での発信があればいいかなと思う。
- ・ こども家庭庁と自治体のつながりが弱いと思うので、もっとこども家庭庁として現場を知っていき自治体によってばらばらな施策を調整するっていうのができればいいと思った。
- ・ いけんふらすは 20 代限定だが、子育てが終わった世代にも意見を聴けたらいいのかなと思う。意見を伝えた後、どうなったか分かると思う。
- ・ 大学の講義を一つもらってこども家庭庁を詳しく知らない人はこども家庭庁に対して何を思っているのか聴くのがいいと思った。

＜自分がもしこども家庭庁で働くとしたら＞

- ・ リモートで働けるといいかなと思う。
- ・ フレックス制度が利用できると嬉しい。
- ・ 定期的に保育園・幼稚園・児童養護施設等のこどもたちと会える機会ができれば嬉しい。

＜組織として働きにくそうなイメージはあるか＞

- ・ 労働時間がブラックなイメージがある。
- ・ 上下関係が厳しいイメージ。

＜今までの意見以外に、言いきれなかった「こども家庭庁のイメージ」や「やってほしい」はあるか＞

- ・ 私たち大学生はこども家庭庁の認知が低いと思う。自分が困っていることに対してどのような支援をもらえるかを簡単に把握できるしくみがあつたらいいと思う。例えば、困っていることをサイトに入力したら「ぽんっ」と支援内容が出てくるような。
- ・ クイズ番組のコラボのように、いろいろな人とコラボして発信していけたらいいと思う。
- ・ こども家庭庁側から私たちに「いまこのような支援がある」と発信してくれたらいいと思う。SNS 等ではなく、意外と郵送などもありかなと思う。

● こども家庭庁で働く人について、どのようなイメージがありますか？

- ・ アクティブで、意見を言い合って向上させていくような働き方ができると思った。
- ・ 色々な人が働きやすいような制度、環境制度も進んでいるようなのでブラックなイメージはない。働きやすそう。
- ・ お役所、省庁というよりも、民間の大企業のような印象を受けた。
- ・ 誰かのため、こどものために献身的に働ける優しい人のイメージ。人の痛みが分かるからこそ働きかけることができると思う。
- ・ スーツではなく、オフィスカジュアルで大企業っぽいと思った。民間企業出身の方もいると聞いたので民間と役所がミックスされていていい感じだなという印象。
- ・ 民間企業の「やってみよう」というアクティブさと役所の「万人受け」させる要素がミックスされていそう。
- ・ 役所には、前例踏襲主義や先例主義のようなイメージがあるが、こども家庭庁で働く人にはそういったイメージが薄く、いろいろなアイデアを出し合って実行できそう。
- ・ 他の省庁よりも親しみやすさがある。教育や子育てに関心のある人が多そう。
- ・ 教育現場で働かれていた方はどれくらいいるのか疑問に思った。
- ・ MBTI（性格診断）でいうと、ENFJ の人が多そう。人の気持ちに寄り添うことが得意な人が多そう。
- ・ INFP の人が多そう。誰かのために喜ばせようと思っている人が多そう。
- ・ 厚労省出身の人は厚労省の知識を持った人が来ているし、文科省なら文科省の人がこども家庭庁には来ていると思うので、いろんな本格的な視点から分析やアイデアが集まっているのではないかなと思う。ただ、派閥争いとかならないのかなと気になる。

＜派閥争いをなくすにはどのようなアイデアがありそうか＞

- ・ 一つの目標やカリスマ性のある人が 1 人いれば派閥はなくなるのかなと思う。
- ・ 大臣が重要。
- ・ 省庁は班・担当課ごとの組織体制なのでミッションごとに分かれればよかった。
- ・ 問題が起きた際に、外に発信することが大切だと思った。例えば、虐待の問題が起きたときは、虐待の専門家を外部から招集する等。

- ・ ミッションごとに組織を分けて、問題が発生した際に公募したとしても、省庁の人は忙しいイメージなので、公募かけても人が集まらなそう。他薦が良いと思った。
- ・ モチベーションをあげるためのインセンティブ、お金などがあればいいと思った。
- ・ 国民からの感謝の言葉が欲しい。

● こども家庭庁のミッションである「こどもまんなか」社会実現のため、こども家庭庁で働く人に、なにを大切にして働いてほしいですか？

- ・ 意見を発信できないようなこどもからどう意見を引き出すかを考えてほしい。本当に支援が必要なこどもから意見を引き出す工夫が必要。
- ・ 旧態依然とした官僚機構から脱却してほしい。前例や先例に囚われず柔軟に対応できるような文化になってほしいなと思う。
- ・ ギスギスせず親しみやすい組織文化を大切にしてほしい。いけんひろばのように付箋を貼っていったみんなが話しやすい雰囲気でのコミュニケーションできれば局同士のつながりも良くなるのかなと思う。
- ・ こどものために考えるのはもちろん、こども目線になって考えると、自分を助けてくれる大人が楽しくなさそう、必死そうであつたら嫌な感じ、大人になりたくないと思われてしまいそうなので、大人が生き生きと働けるようになってほしい。
- ・ ワークライフバランス、私生活を大事に仕事をしている人として、お手本となってほしい。政府の先端を走るお手本になってほしい。

<自分だったら何を大切にしてこども家庭庁で働きたいと思うか>

- ・ 外部から民間の人材を登用することを心がけてほしい。
- ・ 出産、結婚など様々なライフイベントのなかでもキャリアを諦めず、継続して働き、女性でもキャリアアップしていけるような環境があるといい。「男性についていく」といった固定概念をなくし、お役所仕事という堅いイメージが崩れ、「女性でもキャリアアップしていけるんだ！」と思えるといい。
- ・ わくわくやときめきを大切にしてほしい。学び続けることができて成長できるような仕事だいいなと思う。こどもたちと「こんな面白いことあるんだ！一緒にやってみよう」みたいな働き方がしたい。
- ・ 資格のように点数化されるとモチベーションが維持できる。公務員のような仕事は数値化しにくいのが、数字に落とし込めればモチベーション高く働けると思った。
- ・ デジタル庁が取り組んでいる“おくすり手帳の電子化”、“事務手続きのデジタル化”のように「この取組はここまで進んでいますよ」等、政策の進捗状況を見える化し発信していくと良いと思う。
- ・ 判例を蓄積していった共通点を見つけだし、プッシュ型で支援、未然に防ぐなどできるのではないかと。例えば虐待などは共通点があると思う。判例や事件例を蓄積できるデータベースみたいなものがあればいいと思った。
- ・ アイデアが出てから行動に移すまでのスピード感を大切にしてほしい。
- ・ 機密事項以外は、国民目線で見える化していくことが大切だと思う。
- ・ 意見を発信できないこどもたちからどうやって意見を引き出すかが大切。支援が必要なこどもからも意見をもらえるようなシステム、こども食堂やシェルターなどに足を運んで聴きに行くことが大切だと思う。

6 班(社会人 4 名)

● こども家庭庁について、どのようなイメージがありますか？

＜こども家庭庁のイメージは＞

- ・ 新しい省庁だからこそ、様々なことを行っていると思う。「自分たちで新しいことをやっていくぞ」という新しい空気を感じる。
- ・ 「こども家庭庁」の“こども”が平仮名のため、優しそう。
- ・ 今まで、様々な省庁が、こどもに関する取組を実施してきたが、その取組が一か所にまとまったイメージ。
- ・ 他の省庁とは異なり、このような場があることから、革新的というイメージがある。
- ・ こどもの意見を吸い上げていることから、柔軟なイメージがある。
- ・ サイトの作りからしても、いけんぐらすは、こども目線で監修を丁寧に行っているように感じる。LINE やアンケートに書かれている言葉が分かりやすく、声を聴こうという努力が垣間見える。

＜若者のための省庁というイメージがあるか＞

- ・ あまりない。大学生までのこどものための省庁というイメージが強い。

＜政策・取組へのイメージは＞

- ・ 他の省庁と比べて、こども家庭庁が実際に何を行っているか、情報が入ってこない。普段、情報を収集しない人に対しても、こども家庭庁のイメージが付けば良いと思う。

● こども家庭庁で働く人について、どのようなイメージがありますか？

- ・ 小学生の先生に似そうな、温かくて、優しいイメージ。
- ・ 目線を合わせてくれたり、傾聴してくれるイメージ。
- ・ せわしなく忙しそうなイメージ。
- ・ 幅広い年代層が働いているイメージ。
- ・ 他の省庁で働く人とは異なり、出世等を目標に働く、野心家というよりは、社会福祉や教育に携わりたいという想いで、「世の為、人の為」に、理念に基づき働いている人が多いイメージ。
- ・ 一般企業の会社員というイメージ。昇進を考えるよりも、こどもに向き合っているように思う。他の省庁が、お役所仕事というイメージだが、こども家庭庁にはそのようなイメージがない。
- ・ 福祉に携わる人だけだと分からないことも、多様な人材がいることで、様々な視点で施策を実施していると思う。
- ・ こども家庭庁で働く人は、NPO 出身者も多く在籍していると思っている。
- ・ 目標達成が難しい部署だと思うが、こども家庭庁の人が何をモチベーションに働いているのか気になる。
- ・ ベンチャー企業のようなイメージ。

- こども家庭庁のミッションである「こどもまんなか」社会実現のため、こども家庭庁で働く人に、なにを大切にして働いてほしいですか？

＜こどもとの関わり方で大切にしてほしいことは＞

- ・ 他の省庁の方と働き方改革にまつわる仕事を一緒にした際に、メールが深夜 2 時、3 時に返ってきた。そういった矛盾を無くしてほしい。当たり前だが、関わっているこどものことを先ずは大切にしてほしい。
- ・ こどもだけでなく、こどもを支援する児童保護団体等の、こどもと関わる大人のことも大切にほしい。
- ・ こどもの意見を聴くことが大切。いけんひろばのような場所を全国展開して、均等に各世代や地域のこどもの声を聴いてほしい。
- ・ 貧困や教育格差、親の離婚等の問題により、今回のような場に行けない/行こうとも思わない、こどもの声にも耳を傾けてほしい。

＜働く人に望む態度は＞

- ・ 自分の想いをもって働いてほしい。
- ・ 同じ目標と一緒に進んでいく仲間として、大人とこどもが同じ目線に立ち、対等に接してほしい
- ・ 直ぐに結果が出ないと思うので、根気強く働いてほしい。
- ・ こどもを無視して、他省庁とのバランスの取り合いや、大人の事情で施策を進めることはやめてほしい。
- ・ 働く職員が、こどもと関わる大人のロールモデルになることを意識してほしい。
- ・ こども家庭庁が業務を発注する事業者にもビジョンを共有し 1 チームとして働くことを大切にほしい。
- ・ 民間企業だけでなく、支援者団体も巻き込んで働くことを大切にほしい。
- ・ 議論も活発になるため、この仕事が本当に楽しいと思いつながりながら働いてほしい。
- ・ 直接的な影響を与えることは難しいと思っている。ただ、いけんひろばに参加したこどもが、他のこどもの意見を知り、自分の学校等のコミュニティに持ち帰り、友達等に話すことが大切。波及効果として、様々な意見を持つ人が増えていくのではないかな。
- ・ このような場で意見を話すことで、自分の声で社会を変えることができるという自己効力感が高まるのでは。
- ・ 社会の一員だという認識が高まり、自己肯定感も高まるのでは。

＜若者へ期待する施策は＞

- ・ 様々な理由で大学進学できない人に、奨学金や助成金を与える事や、高校進学をサポートが大切だと考える。
- ・ 少子化を止める支援が必要だと考える。結婚したいがお金がない人が増えている気がしており、そのような人に対して支援が必要。
- ・ こどもという括りの中に、自分の年齢が含まれるとは思っていなかった。
- ・ 若手社会人の自殺に対して支援を行っても良いと思った。
- ・ この場のように、若手社会人が、気軽に何か意見が言える場所があれば良いと感じた。